



三、 籍 眼

(3) 村務編造との関連には力をいれない。  
(3) 農家人口の分析に主力をおき、農家の分析は従とする。

(1) 農家経営における農業労働力を分析し、(2) 労働力構成、労働力の年間配分等、(3) 増加した人口がどういう疋を經營のなかに吸収されているか(兼業化の内容)、(4) 吸収されない労働力はどのようにならざるか(通商・出稼等の様態)。

(2) 少数の農家について戦争中にまでさかのぼり、この十年ないし二十年の間におこった人口移動を遡察することにより、(3) の分析を行う。

(3) 家族内の役割分担(家長・主婦・經營者等)が右の変化に対応しているか、(4) のように束縛されているか、(5) 家族成員の身分の變化(結婚・相続・分家・就職等)がどのように行われているか。

四、 註

(1) 村の全体的な人口移動とか、出生率等の背景調査は当然なされねばならぬが、ここでその項目を列挙しない。

(2) 「農村人口」とは農村地域に居住する人口をいい、「農家人口」とは農業を家の職業とする人口で、農村人口中非農家人口を除いた部分である。「農家人口」とは農業を職業とする人口であるから、農業人口中、非農的職業につく人口と未就業人口は除かれ、農家人口でなくとも農業を職業とする人口は含まれる。

(3) 「農業労働力から離れる年令」とは、稲作における基幹労働(荒起し等)から離れる年令をいう。基幹労働力から離れても、運輸等補助労働にはかなりの

通 信

木 下 三

従事する。

拜復 先般御書頂きました。有賀氏からも頂戴しました。二週向ほど岩手県下に調査に出かけて居ましたので御返事おくれ申訳ありません。村務第二回大会では御世話になりました。その節の課務委員に指名されましたが、遠方の者をして御指名されたか、殊に有難迷惑(失礼)という処です。在京の方で適當にやって下さればよかったです。私見は、小生年内に上京致しかねますので、私見だけ記します。小生は「農家人口」と「三男兩題」を提案したいと考えます。中村君とも相談し又二十日通商内務上京の由なので、委員会の事柄ならば委細おことづけ致し度く存じます。折角御用命に預り乍ら申訳ありませんが、万幸他の委員方におまかせ致します。有賀氏にもよろしく。先は御返事迄時節柄御自愛下さい。勿々 (青木太学)

共同課題について

有賀 喜左工門

舊の三十日に課務委員を中心にして東京会員の有志が本年の共同課題について語合った時、第二回大会の懇親会の折の会談の発言を辿つていろいろ考へて見た。あの折課題を決定することは出来なかつたが、何かもつと基礎的なものを送んで共同討論をしたいと思います。案は出でいた。それに問題をなつきりしぼる

という前年度以来の方針との二つは、二回の大会を通して会議諸兄から希望された重要な決定事項となつて来たと思つて居る。

今年の課題をどうきめるかはこれから會員の意見もきかなくては充分に決定出来ないとしても、右の会合での意見のまとまりは「農家人口」の問題にしたいという点まではきまつて来た。たゞ農家人口と云つても、アアロノチの焦点はいろいろあるから、それは必ずしもきまつたわけではなかつた。その時の話合ひで重要な点をあげて見た。それが前文の内容である。しかし尚遺点をどんな風にとり上げるかはもつと會員諸兄の意見をききたいと思つて居るので、これについての意見をよせて頂きたいと切望して居る。

それと共に舊の会合に参加した人々からも特に強調したい点について寄稿してもらひ、紙上討論を展開してきめた方がよいという事になつて居る。今度の通信に出た意見できまつたという風に考へないで、寄稿をまつた上でもう一度課題委員において再検討して、決定しようというのである。寄稿して頂かないと問題にならない。養成でも反対でも表明して頂きたい。

私の思う所を簡単にのべて見た。農家人口を問題にすると云つても、全国的な大きな統計を取扱うこともある。それも重要であるが、我々の会ではその基礎的な問題を検討する意味で個々の村落についてこれを精査に取扱つて見てはどうだろうか、全体の大きな見通しを持って村落のそれを扱うことは必要であるが、逆の行き方もないと全体の大きな問題が具体的に出来ぬというところも出て来る。農家人口や農村人口の量的処理が大切だということも云う迄もないが、農家人口の問題をとり上げてもこうした点にのみ終らせたくな

い、これは明治維新以後を見ても大きな変遷をへていて、これらの動きの中でこれを支えている個々の農家の家族構成に表れている所をつかむことは大切ではないかと思ふ。云いかると農家人口が家族制度と結びついてる点をとりあげて、家族制度の根本問題やその変遷を検討したらどうかと思ふのである。昔の三十日の会合では農業経営との関連を重要問題として、労働力としての次三男、潜在失業、兼業等の問題に話が及んだが、これらは家族制度の根本問題に皆通じている。例えば次三男の問題においては、新民法以後直系傍系の考え方がなくなつたかどうか。次三男の労働は無償か有償か、小遣金はどうしているか。ホマチ労働の如きものはあるか、通勤出張による収入は家の経済に対してどんな風に使われるか。次三男への財産の分配をどうしようとしているか、財産放棄に対する代償はあるか、それらの問題に關して家長権はあるか。直系との差違如何。又これらに關係して潜在失業の問題を取扱わねばならぬ。女子の問題もあり、家庭、家督等の考え方の変化の有無等にもふれなくてはならぬ。農家人口の保有は農業経営が大きな条件をなすこと、以明かであつても、経営を行う主体としての家族構成とその傾向が最も重要である。これは経営の内容を決定して行くのであるから、この意味で家族構成を捉えなければ意味がない。それは家族自身のみでなく、この家族労働を補う雇用労働やユイ労働をも決定して行くので、農家人口はこの関連において捉えなければならぬ。したがつてこれらを媒介とする家關係を捉えることは大切である。そして家關係はもつと巾の広い互助關係を持つことは当然であるから、単に農事に限つてはならないわけである。このように見ればこれはもちろん村落共同体の問題にもなるから、そ

ういう背景を考えなければならぬとしても、今年は一軒の農家を中心として上述の如き關係をこまかく先出しして見て、基礎的な問題をつかむといふことにして見てはどうかと思ふ。どんな個々の農家にしほつて見た所で、それが交つてゐる家關係は複雑なものである。個人的關係もあるから、切りのないものにもなりそうである。少くとも重要な家關係に關して比較的詳細な図形を描いて、農家経営の精神的物質的な基礎構造をつかんで見たい。といつても個々の農家の条件分析が出来ないという意味はないのだから、村落の生活構造はその背景としてどうしてもつかむ必要があるといふことにもなる。

一寸気のついた事だけ記し、諸兄の批判をうけたい。  
(東京教育大学)

## 農村人口問題

大内 力

### 一 調査の目標

日本の農村は過剩人口のたぐひだといわれている。しかし日本の農村においては、そのような過剩人口の大部分が、潜在的なものであるとしてあらわれ、潜在的な形で吸収されているところに向題がある。そしてこのように過剩人口を顕在化させない理由として、われわれは二つの条件を考へることのできる。そのひとつは、家族的な小農経営のもつ経済的特徴である。すなわち日本のような家族的な小経営においては、農民はともかく生活をささえられさえすれば、生産をつつてゆき、またつづけてゆくこととする。したがつてここでは、かりに単位時間あたりの労働生活性があつた

が、つて労働所得が低下しても、總労働所得がある一定の大きさに達しさえすれば労働が扱下される傾向がある。そこで過剩人口は、多くのはあつて、与えられた耕地により集約的に労働が扱下されるという形で吸収されることになる。それによつて労働生産性が低下しても、總所得が心えるかぎりには、過剩人口は顕在化しないであらう。ただ労働所得の低下がいつかじつじつと、總所得の増加が比較的少なければ、兼業だけで農家人口を扶養しえなくなり、兼業所得への依存度が強まるという形で過剩人口が発生するのみである。従つてここでは、過剩人口がむしろ過度労働によつて吸収されるという *Redundant labor* の形ができる。またその二つは、農家の家族主義のもつ社会学的特徴である。ここでは過剩人口は過剩人口として排除されるかわりに、むしろ過剩人口が家族全体の負担において吸収される傾向が強い。そのため過剩人口が、むしろ全体としての農家の生活水準の低下 *under consumption* という形で吸収されようとする。

もちろん以上の二つは、小農的農業のもつ一面であり、他面においては過剩人口を顕在化させようとする力も作用するであらう。農民といへども、自分の労働に一定の評価をする面もあるし、口べらしを考へるために子供を養ふことさえあるからである。ただこのような傾向が一面的に作用しないので、まえのような傾向におおわれながら、あらわれてくるところに向題の複雑さがある。だんだん大化しつゝある農村の人口向題も、こうした二面性の構造を経済学的にも社会学的にも明らかにしなければ、正しく把握できない。

二 調査の方法

々の農家の内部構造の解明に重点をおき  
 部落・村・日本全体などの阿蘭は背景と  
 してのみ考へることにする。  
 2. 農家数は少数でもいいが、できるだけ  
 その村なり部落なりのさまさまの階層・  
 型の農家を万々なく選ぶようにする。  
 C. 戦争（一九三八年）以降の家族の人口  
 移動、就業状況、農業経営の内容、農業  
 労働の状況、村民税（所得税）額、兼業  
 出稼の状況等をできるだけ詳細にしらべ  
 る。（基本調査表はなるべく共通のもの  
 を使用するよう課題委員会を考へる）  
 d. 最近の失業者、要雇働者の状況をしら  
 べる。（東京大学）

## 次の共同課題

について

中野 卓

農家人口——特に潜在失業者人口を、家族を  
 枠としてその枠内で、できるだけ精密にとら  
 えること、という方針に養成。  
 基本的な調査項目を論議決定して調査実施  
 に先立って周知し、各人の研究計画の中にそ  
 れを最少限組入れることにより比較可能な共  
 通の足がかりを持つことが必要。  
 現住世帯員だけでなく、先代当主の兄弟姉  
 妹、現当主のそれ、現当主の子のそれについ  
 て、死去、嫁出・嫁入・分家出・出家等の入  
 々をいくつ調べて調査すること。  
 農業経営における作業分担を現住世帯員に  
 ついて個人ごとに明確にとらえること。その

ため季節ごとの変化も、兼業農家の場合の未  
 農従事世帯員が農繁期に休んだりして農作  
 業に従事する状況をももれなくとらえること  
 家事従事者、学生等についても同様のこと。  
 このような労働力の詳細な組み合わせとその変  
 化を客観化してとらえるために、研究通信紙  
 上で予め、季節毎にありうるべきあらゆる作業  
 の種類・名称を列挙するなど、労働力構成を  
 把握するための標準案を検討完成すること。  
 （このため至急、大内力氏あたりから原案を  
 だして頂けると幸いである）

現在（過去一ケ年）のそれだけでなく、さ  
 かの戻つて、戦時中、戦前（夫々年を明示）  
 等についても同様労働力構成を調査する。他  
 家へ、また他家よりの被働労働力についても  
 経営面積（作付内容別）、所有面積、収穫・  
 収入、それらの変化については勿論である。  
 通勤或は自宅における兼業・副業について  
 も調査項目を配慮する。また在学中の者につ  
 いては、将来の就業予定（農・非農）にも及  
 ぶ。他出、或は非農的経歴ある親類従事世帯  
 員についてはその事情をさかのぼつて明らか  
 にする。

何を以て「潜在失業者人口」とみるか、どの  
 程度「潜在失業者」を含む農業であるかは、  
 多分に相対的なそして獨的な微妙な向題であ  
 るが、できるだけ客観的な基準を以て経営  
 ・労働力のくみあわせを標準化された仕方  
 とらえることから始めるほかない。  
 その上で、家の中の人間関係の具体的な質  
 的ありかた、また意識・態度面に及ぶ。  
 相親者と非相親者、祖親者と、これとの統  
 柄が、各人の経歴、作業分担力また分担の意

向と、どのような関連を持つて、実際の経営  
 内における役割、地位を各人に与えてゐるか。  
 その過不足や適不適が、どのように処理され  
 ているか。それがどのような向題を家の中に  
 生じてゐるか、そして家の外へ及んでゆく  
 としてゐるか。

当面の向題として各人に希望され目ざされ  
 ている生活水準がいかなるものであるか、今  
 は実際にはどうであるか、前者を基準にして  
 後者とのツレが、各家の経歴と労働力構成と  
 のいかなる関連から生じてゐるか。こんなこ  
 とも調査されたいならと思ふ。（生活水準の  
 向題まで及ぶのは困難でしょう。そうしな  
 いで、「潜在失業者」を「潜在失業者」だと言  
 うこともできにくいように思いますがどうで  
 しょうか。）

以上、意見の所願にはじまり表示の趣願に  
 終るていたらくであります。  
 （東京教育大学）

### ◎移 転

二宮哲雄 高知市城北町一〇三番地

金田弘夫 札幌市北八条西一丁目

池田善長(勲)札幌市旭町八 北海道農大校内  
 (昌)札幌市北十三条西十四丁目

### ◎入会者

西村謙二 三重県一志郡木ノ庄村

◎会費払込者(既報以後)

西山美彦子 西村謙二